

2024年 6月 18日

島根中央信用金庫（理事長 福間 均）は、6月18日に開催した総代会で、2024年3月期の決算案を下記の通り報告ならびに決議しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 島根中央信用金庫 2023 年度決算について

売上高にあたる経常収益は前期比 23.7%増の 57 億 75 百万円、当期純利益は 15.5%減の 7 億 52 百万円でした。これにより増収減益の決算でした。

住宅ローンの増加等による貸出金利息の増加や利回り上昇による預け金利息の増加、有価証券の銘柄入れ替えに伴う株式等売却益の増加などが増収の主な要因でした。減益の主な要因は法人税等の増加などでした。

本業での最も中核的な収益力を示すコア業務純益（投資信託解約損益を除く）は、前期比 13.8%増の 14 億 66 百万円で 6 期連続の増益（過去最高）となりました。

自己資本比率は、0.18 ポイント低下し 8.96%で、不良債権比率は 0.65 ポイント改善し 4.26%でした。

2025 年 3 月期の業績予想は、預金利息の増加や人件費・店舗関連費用の増加等を想定し、経常収益は 21.3%減の 45 億 42 百万円、当期純利益は 58.8%減の 3 億 10 百万円としました。

（単位：百万円、%）

	2024年3月期			2023年3月期
		前年同月比	増減率	
預金残高	284,373	7,299	2.6	277,073
貸出金残高	166,510	8,003	5.0	158,507
経常収益	5,775	1,107	23.7	4,668
経常利益	1,058	150	16.6	908
当期純利益	752	△ 138	△ 15.5	891
コア業務純益	1,466	178	13.8	1,288
コア業務純益（投資信託解約損益を除く）	1,466	178	13.8	1,288

以上



※ 「ユースエール認定制度」とは、若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度です。

本件に関するお問い合わせ先  
島根中央信用金庫 経営企画部  
TEL (0853) 20-1000



・ 期末の預金残高は、前期比 2.6%増の 2,843 億円、貸出金残高は同 5.0%増の 1,665 億円となりました。いずれも過去最高の期末残高でした。

— 預金残高は、主に個人のお客さまからの預金が順調に増加し、前期比 72 億 99 百万円増加の 2,843 億 73 百万円となりました。増加は 11 期連続で、過去最高の期末残高となりました。

— 貸出金残高は、引続き地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えし、前期比 80 億 3 百万円増加の 1,665 億 10 百万円となりました。増加は 9 期連続で、過去最高の期末残高となりました。

・ 売上高にあたる経常収益は、前期比 23.7%増の 57 億 75 百万円でした。

— 貸出金利息の増加や、預け金利息の増加により資金運用収益が増加したことや、有価証券ポートフォリオのメンテナンスに伴う株式売却等により臨時収益が増加したことなどにより、前期比 11 億 7 百万円増加の 57 億 75 百万円となり、2 期連続の増収（過去最高）となりました。

・ 経常利益は前期比 16.6%増の 10 億 58 百万円でした。

— 経常利益は資金利益が増加したことや、信用コストが減少したこと等により、前期比 1 億 50 百万円増加の 10 億 58 百万円となりました。

・ 本業での最も中核的な収益力を示すコア業務純益（投資信託解約損益を除く）は、前期比 13.8%増の 14 億 66 百万円となり、6 期連続の増益（過去最高）でした。

— 第 6 次中期経営計画の取組みにより効率性が改善し、基礎的な収益力は引続き向上しました。

・ 当期純利益は、前期比 1 億 38 百万円減の 7 億 52 百万円でした。

— 法人税等の増加などにより減益となりましたが、引続き高水準の利益計上となりました。これにより 2024 年 3 月期決算は対前期で増収減益となりました。